

与那原町：「みんなで創る地域脱炭素社会と活気あふれる美らまち与那原」～新しい未来へ綱(つな)げて～

脱炭素先行地域の対象： **マリタウン東浜エリア、全公共施設群**

主なエネルギー需要家： 戸建て住宅376戸、集合住宅86棟、商業施設40棟、短期大学1校、大型ショッピングセンター1棟、全公共施設36施設 等

共同提案者： 与那原脱炭素地域づくりコンソーシアム※

※おきなわパワーHD株式会社、みやまパワーHD株式会社、与那原町商工会、おきなわコープエナジー株式会社、Re-BORN株式会社、パナソニック株式会社エレクトリックワークス社沖縄電材営業所

取組の全体像

大型商業施設やスポーツ施設が集中し、県による大型MICE施設誘致が決定している「マリタウン東浜エリア」において、太陽光、波力、風力を活用した多様な再生エネルギーを導入するとともに、官民連携による「**よなばる綱がるプロジェクト**」を活動基盤としてAI・ICTを活用したエネルギーマネジメントとナッジシステムを展開し、**全住民参加による脱炭素化**や産業創出と地元企業の競争力強化を図る。多様な地域モビリティを活用したMaaSの導入等により、**歩きたくなるまちづくり**を進める。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 住宅、商業施設等に**PPAによる自家消費型太陽光発電**(6,135kW)・蓄電池を最大限導入
- ② 地域の生活・健康・教育拠点にソーラーカーポート、ソーラーアーケード(1,850kW)・蓄電池を設置するとともに、**波力発電**(350kW)、**小型風力発電**(15kW)といった**多様な再生エネルギー**をオフサイトPPAにより導入して対象エリアに供給
- ③ 官民連携による再生エネルギーを活用したまちづくり「**よなばる綱がるプロジェクト**」を活動基盤として、地域新電力のおきなわパワーHD(株)が**AI・ICTを活用したエネルギーマネジメント**とナッジシステムを展開し、**全住民参加**で自家消費率の向上を推進



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 自動車に替わる多様な地域モビリティ(電動キックボード、電動サイクル、グリーンスローモビリティ)やコミュニティバスの運用改善を組み合わせた**MaaS**を導入するとともに、水路・公園エリアにソーラーアーケードを設置し、亜熱帯性気候においても**歩きたくなるまちづくり**を進める
- ② 台風時の停電や大規模災害等に備えるため、蓄電池EV充電ステーションを導入し、EV化とV2Hによる停電時のレジリエンスを強化

3. 取組により期待される主な効果

- ① 大型MICE施設誘致が決定しているマリタウン東浜エリアを先行して脱炭素化することにより、人・技術・資金、企業を呼び込み、企業間連携による新たな**産業創出**と**地元中小企業の競争力を強化**
- ② 多様な地域モビリティの導入により、自家用車依存度の低い生活をサポートし、高齢者が**健康で元気に活躍できるまちづくり**と住民の安全安心につなげる
- ③ 事業所、住宅、公共施設等に蓄電池を設置し、全公用車や事業用車をEV化することにより、災害に強いまちづくりを実現

4. 主な取組のスケジュール

| 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 |
|--------|---------------------------------|----------|--------|--------|
| | 住宅・事業所への太陽光発電、ソーラーカーポート、蓄電池導入補助 | | | |
| | ソーラーアーケード、ソーラーカーポート・蓄電池設備設置 | | | |
| | | 小型風力発電導入 | | |
| | | 波力発電導入 | | |
| | 商業施設、大学の省エネ化、住宅のZEH化、街路灯の省エネ化促進 | | | |
| | エネルギーマネジメントと全住民参加のナッジの実践 | | | |
| | 多様な地域モビリティ、脱炭素MaaS | | | |
| | 公用車・事業用車のEV化・カーシェアリング | | | |
| | EVを活用したレジリエンス強化(充電ステーションとV2H) | | | |